



今年度の各種訪問、研修会への御協力

～ありがとうございました～

今年度はコロナ禍の影響もあり、各種会議や研修会等の計画が大幅に変更、中止となる大変な一年間となりました。そんな状況下でも、お忙しい中、各市町村を訪問させていただきました。短い時間ではありますが、「実際に会って話す、活動を見る」ことが何よりの、情報共有であり、社会教育で大切にしていかなければならないことであると考えます。

お忙しい中、機会を設定しご対応くださった各市町村の教育長様、並びに関係職員の皆様にあらためまして御礼申し上げます。



<公民館訪問・社会教育研修会>

今年度は、7市町村の公民館を訪問させていただき、4つの町村で社会教育研修会を実施しました。各市町村の課題はそれぞれ異なりますが、地域への熱い思いは共通するものがあり、私たちも大変勉強になりました。

<放課後子ども教室等訪問>

域内5市町村11の放課後子ども教室に浪江町の放課後なみえクラブを加え、12教室を訪問させていただきました。各教室、地域の方々が子どもたちにたっぷりの愛情を注ぎ、さまざまな活動を工夫している様子を見せていただき、地域人材の力・すばらしさを感じました。

<あづま号巡回>

県立図書館の「あづま号」巡回の同行で7町村を訪問させていただきました。本を手にして目を輝かせる姿が印象的でした。さらに多くの方々が利用できるよう、広報活動等を工夫していききたいと思いました。

<各種会議、研修会>

コロナ禍のため、4回の会議のうち2回が書面開催となってしまいましたが、各市町村の関係者が一堂に会し協議する機会はとても貴重なものです。短い時間ではありますが、各市町村の思いや取組を共有する場として、今後も大切にしていきたいと思えます。

感染予防対策を十分に行い、4つの研修会を開催しました。域内で活躍されている方による講義や実践発表など、実りある研修会となりました。次年度も内容を十分吟味し、地域や学校の方々の学びの機会を充実させていきたいと考えています。



令和3年度社会教育事業 ここがポイントに…

震災から10年が経過した今、

「復旧状況の地域差と復興意識のずれ」や「震災を知らない世代の増加」等、

これまでと違った新たな課題も表出してくるステージに入りました。

そこから福島県の社会教育では、「継承」と「協働」を柱として、令和3年度の社会教育事業を構想しています。

【継承】 震災の記憶と教訓を「つなぐ」

自然体験活動や多様な体験活動、読書活動を通して

主体性・強い心・思いやりの心を育てていきましょう。

継続している十七字絆ふれあい事業などの交流活動を通して

交流による思いを共有していきましょう。

交流、調査・研究、思いを伝えるなど、子どもの主体的な「交流」「発信」を通して

さらなる復興に向けた思いを育てていきましょう。

【協働】 学校を核として地域住民を「つなぐ」

これまで以上に地域学校協働活動事業を推進し、

地域と共にある学校、学校を核とした地域づくり

をめざしていきましょう。

放課後子ども教室等、「子どもは地域みんなで育てる」意識を醸成し、

地域の教育力を一層高めていきましょう。

講座や研修会、「家庭教育支援チーム」体制の構築など、

家庭環境の改善に地域も関わっていきましょう。

たくましい「人づくり」とつながりのある「地域づくり」のため、社会教育の持つ役割は大きいと思います。

各市町村それぞれの課題があるうえ、コロナ禍の課題も引き続き現場を悩ませることと思います。

このような状況の中だからこそ、社会教育の視点から12市町村が情報を共有し、相双地区として「しっかりとつながっていく」ことができるよう次年度もよろしくお願いいたします。

